６年研究授業計画

東二番丁小学校　６学年担任　武田　直樹

１　研究授業で目指す児童像

課題に対する自分なりの考えを持ち，言語を使って理由や根拠を明確にして伝え合い，自らの考えや集団の考えを広げたり深めたりすることができる。

２　児童の実態

課題に対して，一人一人が自分なりに考えようとする意欲をもっている児童が多い。４月の自分の読み取りを基に音読を工夫する活動においても，それぞれが工夫して音読する場面が見られた。ペアやグループで発表する機会を設けると考えたことを活発に伝え合い，お互いの考えの違いを認め合う様子も見られている。しかし，児童によっては，自分の考えを伝えることはできていても，相手の意見を聞いて自分の考えを見直したり，生かそうとしたりすることが難しい児童も見られる。また，物語文や詩では，読み取ったことや感じたことを書き表すことはできるが，時間が差が大きい。その根拠においても，印象に残った一文を基に自分の感じたことを伝えることはできても，作品全体を通じて感じたことを伝えられない児童もおり，読むことに関しては個人差が見られる。

３　授業研究計画

（１）人物の関係や心情の変化を読み取り，それを根拠に自分の考えを明確にして，伝え合うことで，登場人物の心情への理解を深めることができる授業。

（２）文章の要旨を捉え，筆者の考え方を明確にした上で，それに対しての自分の考えを持ち，考えたことを交流し合い，深め合う授業。

４　授業技術課題

・　読み取ったことを掲示物などで可視化して授業の中で活用し，人物同士の関係や心情の変化を掴みやすくする。

・　児童が見通しをもって協働的な学習に取り組むことができるように課題提示と指示を明確にする。